堀切と堀切稲荷社

《堀　込》

江戸時代の末頃、堀込字堀切地内に、昼夜狐が出没し、村人たちを困らせていた。

そのため、堀込部落の小林峯三郎、広田半次らが中心となって、堀切二十八番地に建立したのが堀切稲荷神社である。当時、このあたりは相当な森林地帯で、稲荷様のところには、三本の松の大木があった。

祭礼は、部落のお年寄りたちによって、三月十日に行なわれていたが、今は八月一日に行なわれる。

戦時中、出征兵士の武運の長久を祈り、出征兵士も必らずお参りしてから戦地へ向かった。

堀切の地名は、その昔、早魃の年に、木之崎村と横田村の住人が、江花川から簀子川に水を流すために、一夜にして堀を切ったところから生まれた地名で、今でも堀の跡が志茂字落合との境に残っている。

（話者　広田寅次　藤田軍次）

堀切稲荷

堀切跡